

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ)	フリガナ) ショウガク	フリガナ) タカクボ
日本大学	商学部	高久保ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) チームヤド	フリガナ) ヤマガチツカサ	8 名	無
チーム YADO	山口 掌		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)

・パワーポイント ・チームで作成したパンフレット

研究テーマ (発表タイトル)

地方の観光業を救え！「訪日外国人を呼び込む復興戦略」

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

私たちの研究の目的は、地方に訪日外国人を呼び込み、衰退する地方の観光業に歯止めをかけることが目的です。この目的を達成するべく、私たちは留学生の存在に着目しました。日本に留学にやってくる学生は増加を続けており、留学生に地方観光の魅力を伝えることが出来れば、その留学生から、家族、親族、友人などの訪日外国人を呼び込むことが出来ると仮説を立てました。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

今回、研究地として選んだのは静岡県伊豆の国市、その中の伊豆長岡温泉街です。伊豆の国市の主要産業は観光業であり、伊豆長岡温泉は 1300 年も前から温泉が湧き出て、源頼朝が訪れたとも言われる歴史ある観光地です。しかし伊豆長岡温泉街は不況の煽りなどによって旅行者が減少し、お店をたたむ旅館が続出。現在は最盛期の半分にまで旅館数が減少しました。旅館の減少傾向は日本全国でも起きており、厚生労働省が 11 月 17 日に発表した 2015 年度「衛生行政報告」によると、「15 年度末現在の旅館営業軒数は前年度比 3・0%減の 4 万 661 軒と 1 年間で 1238 軒減少した。14 年度の減少数と比べると、226 軒少ないものの、依然として旅館減少の流れに歯止めがかからない状況が続いている。(旬刊旅行新聞『旅館

軒数 4 万 661 軒、減少に歯止めかからず（16 年 3 月末時点）』2016 年 アクセス日 2017 年 9 月 26 日）』と述べられている。

一方で日本全国ではインバウンドという言葉が盛んに使われ、訪日外国人が増加を続けていますが、その多くが東京～富士山～大阪までのゴールデンルートと呼ばれる観光周遊ルートを利用しています。しかし、伊豆の国市はゴールデンルートには含まれず、伊豆長岡温泉に宿泊する訪日外国人は依然少ないままです。

訪日する外国人は日本に来る旅行期間をゴールデンルートの観光に使っています。そのため、単純に伊豆の国市がそういった訪日外国人にアピールしても、観光してもらえる可能性は少ないと考えました。一方で、現地に住む留学生であれば、ゴールデンルート以外を観光する時間的余裕と、伊豆の国市を既に知っているということから、知名度の課題を克服しています。このことから、まずは伊豆の国市周辺に在住している留学生に注目することにしました。

3. 研究テーマの課題

伊豆の国市周辺には、日本大学国際関係学部のキャンパスが設置されており、多くの留学生が在住しています。私たちは学生団体の1つ「中国留学生交流会」という中国からの留学生が多数所属する学生団体に聞き取り調査とアンケート調査を行いました。すると、日本の伝統的な文化に興味を持っている学生が80%と多くの学生が興味を持ち、旅館に泊まったことがある人が66%を超える中、家族に観光地として紹介したい場所として、伊豆長岡温泉街を上げた人は誰もいませんでした。

では、そもそも伊豆の国市、伊豆長岡温泉街には魅力がないのでしょうか。実際に中国の留学生に観光をしてもらうことにしました。2016 年、2017 年の夏休みの期間に伊豆長岡温泉にそれぞれ 10 名と 4 名が観光し、旅館に宿泊した結果、その全員がご飯が美味しく、落ち着くことが出来るなど魅力があった、と回答しました。

そこで、どのように留学生にその魅力を届けるか、私たちは伊豆の市あやめ会館にある観光課を訪問し、そこでパンフレットが煩雑していることに気付きました。全部で 12 枚のパンフレットが用意されていたので、まずはパンフレットを留学生の人に見てもらい、意見を募ることにしました。すると、いくつかの課題があることがわかりました。まずは言語の問題で、中国語に対応しているのは簡体字が 1 枚、繁体字に対応しているのは 2 枚のみでした。次に、史跡が乗ったパンフレットはあまり興味が湧かないといった意見が出ました。また使われている写真が見にくいため行きたいと思わない、サイズが小さいというような問題点も挙げられました。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

これではあるはずの魅力が伝えられるはずもなく、上記の問題を解決した留学生に向けたパンフレットを作成するに至りました。このパンフレットを用いて留学生の方に伊豆の国市を観光してもらうことで、伊豆の国市の魅力を味わってもらい、「家族に紹介したい観光地」として、留学生を軸に家族、友人へと紹介してもらい、訪日外国人の増加を目指します。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

伊豆の国市周辺に在住する留学生への調査 30 件や留学生 14 名に実際に伊豆の国市を訪れてもらい、魅力調査を行いました。伊豆の国市が用意する観光パンフレット計 12 枚を留学生 5 名から良い点・悪い点を挙げてもらい、それをもとに留学生向け伊豆の国市観光パンフレットを作成しました。そしてこのパンフレットを再度、先ほどの留学生とは異なる 5 名の留学生に見てもらった結果、5 名全員が伊豆の国市に興味を持ち、その理由として見やすいこと、面白そうなスポットが載っているなどが挙げられました。

6. 結果や今後の取り組み

上記の通りパンフレットを改定することで、留学生の人に伊豆の国市の魅力を伝える内容になりました。今後は観光案内所、旅行代理店など各所にパンフレットを設置し、手に取ってくれた留学生に向けて、本当に伊豆の国市を家族や友人に勧めたいと思うか、についてアンケートを取り研究するほか、パンフレットをホームページに掲載し、認知度の向上を図ります。また、春、夏、秋、冬版といった季節ごとのパンフレットを作成し、継続的に伊豆の国市の魅力を発信していきます。この他にも、また来たいと思ってもらえるためのシステム作りを行う必要があると思います。

7. 参考文献

・旬刊旅行新聞『旅館軒数 4 万 661 軒、減少に歯止めかからず（16 年 3 月末時点）』2016 年 アクセス日 2017 年 9 月 26 日

・「新興国はどんなところ？新興国について是非知っておきたいこと」

https://www.jpmorganasset.co.jp/jpec/ja/promotion/motto_em/theme/theme_index.html (アクセス日 2017年9月27日)

- ・「日本の人口、減少幅最大の30万人 東京圏集中も加速 人口動態調査1月1日時点、出生数は100万人割れ」
https://www.nikkei.com/article/DGXLASFS05H1T_V00C17A7EA1000/ (アクセス日 2017年9月27日)
- ・外国人宿泊者 22%減 県内上期、中国定期便の運休響く「日本経済新聞」、2017年9月12日、電子版
(<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO2099104011092017L61000/> 閲覧日: 2017年9月26日)
- ・デービット・アトキンソン 新・観光立国論 イギリス人アナリストが提言する 21世紀の「所得倍増計画」 著デービット・アトキンソン 発行所東洋経済新聞
- ・伊豆長岡温泉 二葉旅館 | 情緒あふれるひのきの露天風呂、(<http://www.hutaba.com/feature/izunokuni.html> 閲覧日: 2017年9月26日)
- ・経済早わかり: 訪日外国人の増加と今後の課題、(http://www.huffingtonpost.jp/shunpei-fujita/foreign-visitors-to-japan_b_9648572.html 閲覧日: 2017年9月26日)
- ・「観光立国推進基本計画」を閣議決定 | 2017年 | 報道発表 | 報道・会見 | 観光庁、(http://www.mlit.go.jp/kankocho/news02_000307.html 閲覧日: 2017年9月26日)

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BPマーケティング社様に作製していただく大会結果HPに本企画シートは掲載されます。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡します。
- ※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
- ※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。
- ※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを4ページ以内におさめて、提出してください